

# RSS が生み出す情報共有の新潮流 企業を活かすイントラブログ

ブログ人気が続いているが、新たなブログ革命が企業ネットワークの中でも起きている。本稿では「イントラブログ」と呼ばれる、ブログを応用した社内情報共有システムを紹介する。イントラブログは「社内ブログ」と混同されがちだが、その本質はRSSを束ねてリアルタイムで社内情報の変化を知ることにある。つまり、社内ブログは社内情報をRSSによって発信するための1つのツールであり、きっかけに過ぎない。

小川 浩

イントラブログ・コンソーシアム / エヴァンジェリスト

## ブログのビジネス利用と 社内ブログの普及

マーケティング目的の利用や顧客への告知など、社外への情報発信に用いる「社外公開型」のブログに対して、「非公開型」のブログも存在する。非公開型のブログは社内向けに設置され、社員を読み手として情報発信を行うビジネスブログである。この非公開型のブログは結果として従来のイントラネットの代用もしくは併用という形式をとる。これがいわゆる「社内ブログ」である。

ブログは、書き手であるユーザーが、それぞれの視点で情報を気軽に書き溜めて、それをいつでも参照できるという優れたメディアだ。加えて、そもそもが「Web Log」と呼ばれるように、記述され

た内容は時系列やカテゴリーに沿って整理され、アーカイブされる。さらに、XML準拠のXHTMLでページが記述され、かつ概略をRSSというメタデータで残せるので、高い検索性とリアルタイム性を持った情報更新の通知ができる。

これらの便利な機能を持つブログだが、企業内に持ち込んで（つまり、社内ブログとしても）同じようなメリットがある。形式にとらわれない、さまざまな情報や知識を自由に書けると同時に、再活用が体系立てて行える。つまり「暗黙知」と呼ばれるような不定形の知識や知恵のデータベースとして利用できるのだ。

従来のイントラネットやグループウェアでは、スケジュールやアドレスの管理など、体系化された情報＝「形式知」の扱いには適しているが、逆に体系化や形式

化がされていない知識を蓄積したり、検索したりすることは基本的にできない。形式知ではない情報＝暗黙知は、単なる思いつきや雑談の中に潜む場合が多いといわれるが、それらは時にはビジネスのアイデアを含んでいたたり、さまざまな発明や事業のヒントとなり得る可能性を秘めていたりする。「この情報を知っているヒト」や「あの人が知っているヒト」など、形式化されていない知識の蓄積や情報共有とその検索に、社内ブログが有効ではないかと考えたのがイントラブログのきっかけである。

## イントラブログと 社内ブログの相違点

「イントラブログ」という呼び方を筆者が公に使い始めたのは2004年8月。「イントラネット」+「ブログ」という単純な組み合わせからか、ブロガーの間では急速に定着したようだ。しかし、実のところイントラブログの真の定義は、社員だけに限定されたブログ＝「社内ブログ」とは同義ではない。

筆者がイントラブログと名付けたソリューションは、「XMLに準拠したHTMLであるXHTML言語によって記述されたもの」であり、かつ「RSSを自動的に生成可能なセマンティックなネットワーク」のことを指す。

つまり、社内ブログはイントラブログの構成要素の1つでしかない。現在のイントラネットは、社内ポータルや掲示板、ファイル共有サーバーといった、基本的な機能しか持っていないケースが多い（それ以外の機能についてはグループウェアが負うことになる）。

### 【用語解説】RSS

RSSは、ウェブサイトの更新内容をXMLによって定められた記述方法によって簡潔にまとめたフォーマットであり、ウェブサイトのページごとのメタデータである。

Rich Site SummaryまたはRDF Site Summary、あるいはReally Simple Syndication。XMLフォーマットによって記述された、

Webサイトの更新情報サマリーのことで、名称の相違は、RSSのバージョンの違いによる。最近では、更新内容をより幅広く記述した「ATOM」と呼ばれるフォーマットも存在する。ただしここでは、ATOMフォーマットはRSSフォーマットの変形であり、同義とする。

また、社内に複数のサーバーが存在し、事業部ごとにそれぞれのポータルを持っているといったケースもあるが、それらを互いに連携させることは難しく、相互リンク程度の扱いになっているのがほとんどだろう。

イントラブログは、社内のさまざまなポータルやグループウェアといったシステムを、RSSという標準フォーマットを使って結び付けるといって、革新的なソリューションなのだ。このRSSを束ねてリアルタイムで社内情報の変化を知ることこそ、イントラブログの本質だといえる。

## メールに代わる情報通知 RSS と RSS リーダー

イントラブログにおける社内ブログは、その「見た目」に着目すると、次の2つに大別できる。

### いわゆるブログ的な作りのページ

時系列にテキストが表示され、コメントやトラックバック機能を有する。ブログとして使うには手軽でよいが、その枠から外れるデザインや構造にしたい場合には都合が悪い。

### 一見ブログ的ではない作りのページ

通常のHTMLサイトと変わらないが、ブログ構築ツールによってエントリーもしくは編集されている。ブログ的要素はCMS機能に抑え、独自のデザインや目的に合った構造にカスタマイズできるが、構築にコストがかかる。

いずれのケースでも、すべてのブログの場合と同様に、重要なキーワードがある。それはXMLとRSSだ。

ブログフォーマットに準拠したウェブサイトとは、XMLに準拠した言語のXHTMLによって書かれていなくてはならない。加えて、RSSを常に配信できる仕組みを持っていることが必須条件となる。

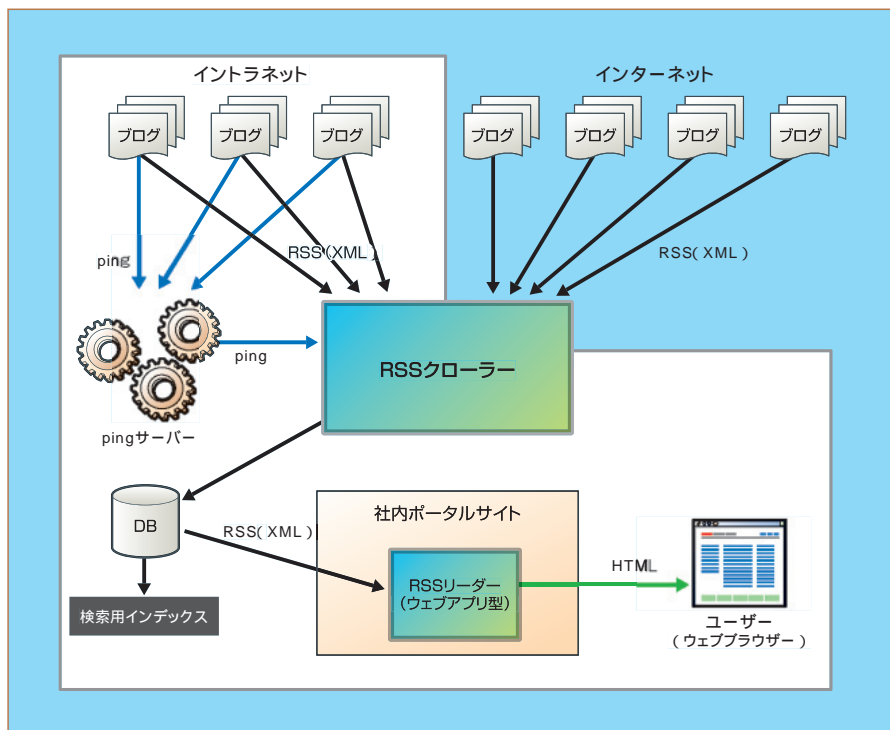


図1 イントラブログの基本的な概念。RSSクローラーが情報の収集を行い、RSSリーダーが情報を提供する。イントラブログ本質は、この2つの機能が中心となって実現するリアルタイムな情報の通知だ。

イントラブログはこの2つの条件によって、暗黙知のデータベース化という機能に加えて、非常に効率的な情報通知の機能を持つことになる。RSSは、ウェブサイトの更新内容をXMLで定められた記述方法によって簡潔にまとめたフォーマットであり、ウェブサイトのページごとのメタデータだ。これを使うと、ウェブサイトの更新情報を擬似的にプッシュ配信できる。さらに「RSSリーダー」と呼ばれるツールを使って定期購読が可能となる(図1)。

ちなみに、RSSリーダーにもさまざまな形態のものがあるが、各クライアントPCにソフトをインストールようなクライアントアプリケーション型の場合、メンテナンスの手間やコストが高くなってしまふ。したがって、イントラブログにおいては、原則的にウェブアプリケーション型のRSSリーダー(および更新情報のクローラー)の導入が望ましいだろう。

ウェブアプリケーション型のRSSリーダー&クローラーは、社内のサーバーにインストールして、ウェブブラウザ経由

で使用する。読むべきブログの数が増えてきた場合には、購読管理や各種情報の仕分けを行えるRSSリーダーは非常に重要する。逆にこれがないと、膨大な情報を整理しきれず、イントラブログの導入効果を大きく損ねることになりかねない。この点も、イントラブログの効率的な運用のためには重要な要素だといえる。

RSSは、記事のタイトルと要約、更新日、記事の作成者などが記述されているメタデータだ。RSSリーダーを使えば、ユーザーは自ら登録したブログやRSSを提供しているニュースサイトなどのサーバーを巡回し、更新されたRSSの情報を収集して表示できる。つまり、イントラブログが発信するRSSを一覧し、必要な情報にのみアクセスできる。

これまで「ウェブサイトの要約をプッシュで送る」という機能を担っていたのは、メールであった。一般に多くの企業は、自社のウェブサイトの更新情報をメールマガジン配信業者に依頼し、潜在ユーザーへメールによって通知してきた。社内においても同様で、イントラネットに掲

載した情報を、いちいちメールによって社員に通知していることが多い。イントラネットの更新情報をRSSによって配信できれば、この問題はかなり解消し、メールサーバーへの負荷を大きく低減することが可能となる。イントラブログがブログフォーマットでなければならない理由は、RSS生成機能を持っているからだ。社内のすべてのウェブサイトがRSSの生成を可能とすることが、社内情報通知の効率化を実現することになる。

## イントラブログの構築に対応した各種製品

イントラブログの構成要素として、社内ブログ構築システムを提供する企業が次々と出現している。代表的な企業とサービスを紹介する。

### BOXER iB

日立製作所の「BOXER iB」は、ネットビジネスのインキュベーターとして知られるネットエイジ社のモバイル専用ブログサービス「moblo.jp」をベースに再設計された、イントラ専用のブログ構築ツールである(図2)。「ブログポータル+社員ブログ」を構築でき、かつケータイからの投稿と閲覧をサポートしている。ASP版は提供されておらず、基本的に大企業向けの製品といえる。今後は、20ユーザーに限定した無償版も提供される予定だ。また、このブログの企画開発のため、ネットエイジはブログエンジンという新会社を設立した。

<http://portal.boxer.ne.jp/intrablog/ib.html>

### ドリコムブログオフィス

ドリコムのサービス「ドリコムブログオフィス」も基本的にはASP型であり、ブログポータルと社員ブログ、さらにグループで共有するためのブログが簡単に構築できる(図3)。ただし、ASP版のセキュリティはID/パスワードのペーシ

ク認証だけのようであり、大企業での導入には多少難もある。

<http://www.drecom.co.jp/>

### BizPal

イーストの「BizPal( ビズパル )」はASP型で、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)とブログを組み合わせたようなサービスだ(図4)。mixiやGREEといったSNSは、自前のブログは持たず(代わりに日記がある)、外部のブログの閲覧制限をSNS側で制御できるが、これを統合したものといえる。

正式版は2005年7月から提供予定で、現在は体験版が公開されている。このようなSNSを組み合わせたサービスやパッケージソフトを提供するベンダーは、今後さらに増えてくと予想される。

<http://bizpal.jp/>

### COMLOG

イーハイブ・コミュニケーションでは、「COMLOG( コムログ )」という社内ブログツールを、ASPサービス版とサーバーソフト版の両方で提供している。個々の社員ブログとは別にブログポータルを作成でき、ケータイからの投稿と閲覧もサポートしている。

<http://www.comlog.jp/>

## RSSリーダー&クローラー

イントラブログにおける真の主演は、社内に張り巡らされたRSSを収集し、社員に閲覧させると同時に、必要に応じて共有させるRSSリーダー&クローラーである。現時点では、公式にこれを社内システムとして販売しているのは日立製作所だけだが、近い将来にさまざまな企業がこれを扱うことになるだろう。

### Sonar

日立製作所の「Sonar( ソナー )」は、イントラネットおよびインターネット上のRSS

を自動的に収集するRSSリーダー&クローラーだ(図5)。RSSに対応していれば、ブログでなくてもウェブサイトのHTML更新情報を自動的に収集し、社員は自由に購読できる。また、キーワード検索の機能も持っている。社内におけるブログの更新情報、つまりRSSをリアルタイムに入手できるうえ、ユーザー自身が購読したいブログの選択もできる。

<http://portal.boxer.ne.jp/intrablog/archives/000736.html>

## イントラブログの構成要素になり得る製品

イントラブログの本質的を考えると、RSSさえ生成できれば、何もブログそのものである必然性はない。さまざまな情報共有ツールがRSSに対応していけば、RSSリーダー&クローリングソフトとの連携は十分に実用的だといえる。次に、ブログ以外でイントラブログに対応している製品を紹介する。

### サイボウズ デヂエ 5.1

サイボウズの「サイボウズ デヂエ 5.1」は、業務情報をウェブで一元管理し、社内共有するためのナレッジマネジメントツールである。ブログではなく、もともとは同社が独自に開発した簡易データベースだが、バージョン5.1で、登録ライブラリー情報のRSS化に対応した。したがって、デヂエとRSSリーダーの組み合わせにより、イントラブログを構築することも十分可能といえる。

<http://d.cybozu.co.jp/>

### サイボウズ ガルーン 2

「サイボウズ ガルーン」は、ウェブアプリケーション型のグループウェアであり、社内情報を集約する企業ポータルサイトが構築できる。間もなく登場するバージョン2では、グループウェアとして初めてRSSリーダー機能が追加される。



イントラネットやインターネットのブログはもちろんだが、社内システムをRSSに対応させることで、簡単なシステム間連携が実現できるという点も注目される。

<http://g.cybozu.co.jp/>

## 普及には書き手よりも読み手のサポート

以上のように、イントラブログを構成するために、最低限必要なソフトウェアやサービスは、さまざまな機能や特徴を持ったものが各社から提供されている。さらに今も増えつつある状況だ。

新しいソリューションを社内を導入する際に、担当者には常に「社員は使ってくれるだろうか？ 積極的に使われるようにするにはどうしたらいいか？」という心配がつきまとうものだ。イントラブログにおいては、まず社員全員に対して、必要な情報を簡単に入手できるような仕組みを提供することが先決だろう。

RSSリーダーは、利用方法を説明するまでもなく、導入と同時にすぐに活用できる簡単で便利なツールである。また、既存のイントラネットにある掲示板などの情報をRSS化する程度なら、企業の情報システム担当者にとってもハードルは低いだろう。社員が意識することなくRSSによる情報購読に慣れさせることは、それほど難しくないとと思われる。

サイボウズのデジエのように、すでに企業内で普及し始めているグループウェアやナレッジマネジメントツールがRSSに対応するのも時間の問題であり、今後ブログ自体もその形態を変え、様々なツールの中に溶け込む形で全体に浸透していくと考えられる。つまり、ブログをブログとして社内を導入するという動きと並行して、既存システムがブログフォーマット(XML、XHTML、RSS)に接近するというムーブメントが生まれてくる。同時に、社内情報の閲覧ツールとして、RSSリーダーが普及すると考えている。



図2 BOXER iB。日立が提供するBOXERシリーズのグループウェア、RSSリーダー&クローラーと組み合わせでイントラブログを実現する。



図3 ドリコムオフィスブログ。企業内の情報共有を目的に開発されており、情報ポータルとして利用しやすい作りになっている。



図4 BizPal。ブログとSNSを融合した製品で、人事組織の明示や社員交流の活性化を生み出す可能性を秘めている。



図5 Sonar。社内ブログを含め、RSS情報の収集と整理を行うためのRSSクローラー&リーダー。イントラブログにおいて重要な構成要素の1つ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)